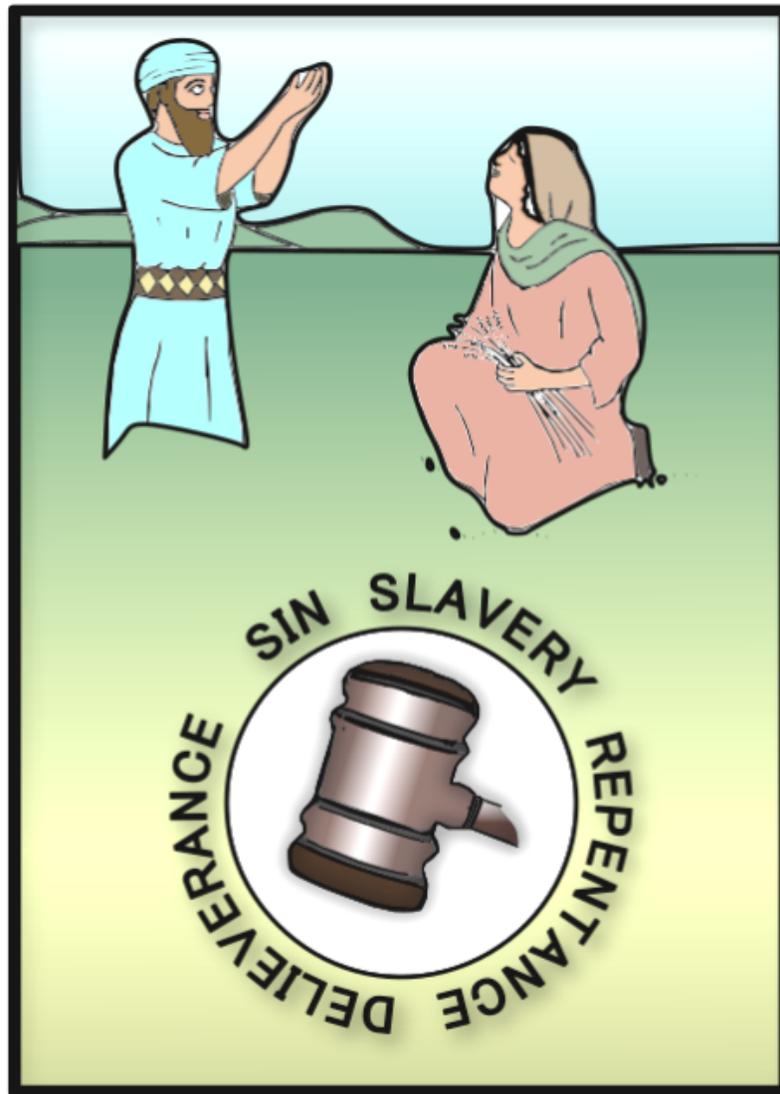


士師の時代

イスラエルの暗黒時代



士師記
ルツ記

第12課:士師の時代

イスラエルの暗黒時代

聖書

本	著者	年
士師記	著者不詳	紀元前1050年 - 1000年
ルツ記	著者不詳	紀元前1000年

概要

士師記は、「それぞれが自分の目に正しいと見えることを行っていた」時代に、イスラエルが不従順と抑圧を繰り返し、士師によって救われる様子を描いています。同時代の『ルツ記』は、忠誠と信仰を貫いたモアブ人女性の物語であり、彼女はダビデ王の曾祖母となりました。

レジュメ

イスラエルの歴史における暗黒時代

- 多くの部族は土地を完全に征服できず、異民族が残りました - 士師記1~3
- 神の使いは、これらの民族が「あなたの脇腹のとげ」となると警告します - 士師記2:3
- ヨシュアの死後、「主もそのみわざも知らない」新しい世代が現れました - 士師記2:7
- イスラエルは偶像に仕え、邪悪な慣習に陥ります。

罪のサイクル (士師記2:11-19)

- 士師記は、イスラエルが繰り返した罪と悔い改めのサイクルを記録しています：
 - 罪：民は神に背き、罪に陥る
 - 抑圧：異民族が立ち上がり、イスラエルを苦しめる
 - 悔い改め：民は悔い改め、神に叫ぶ
 - 士師の登場：神は士師を起こし、民を導く
 - 救い：民は敵から救われる

主な士師たち

デボラ - 士師記 4-5

- 知恵と勇気を持つ女預言者であり士師。バラクを戦いに呼び出し、共に出陣するよう求められました (4:4-9)
- 勝利後、神への賛美の歌を歌います (5:1-31)

ギデオン - 士師記 6-8

- 恐れて隠れていた時、神に召され「力ある勇士」と呼ばれました (6:11-12)
- 神の力を示すため、わずか300人でミデアン人を打ち破ります (7:7)
- 後に黄金のエポデを作り、イスラエルを偶像崇拜へと導いてしまいました (8:27)

エフタ - 士師記 11-12

- 拒絶された追放者でしたが、危機の中でイスラエルの指導者となりました (11:1-11)
- 平和交渉を試みた後、アンモン人を打ち破ります - 11:12-33
- 娘を犠牲にする悲劇的な誓いを立ててしまいました-11:30-39

サムソン - 士師記 13-16

- 生まれながらにして神に捧げられたナジル人で、超自然的な力を持っていました (13:3-5)
- 誘惑や復讐心に屈することが多く (14~16)、最後はペリシテ人の神殿を倒して命を落としました (16:28-30)

ルツの物語 (ルツ記)

- ルツは義母ナオミに忠実を示し、共にイスラエルの神に従う道を選びました - ルツ記 1:16-17
- 畑で謙虚に働き、親族の贖い主であるボアズから親切を受けます - ルツ記2~3
- やがてボアズと結婚し、ダビデ王の曾祖母となります - ルツ記4:13-17

要点

1. 「それぞれが自分の目に正しいと見えることを行っていた」という言葉が繰り返され、イスラエルは道徳的に墮落していきました。
2. 神は、ご自分の民が何度も失敗し、罪に陥る中でも、深い憐れみをもって応えてくださいました。
3. 邪悪な時代であっても希望はあり、神は人々を起こして、ご自身のもとへと導くことができになります。